

鈴木 えつお

原油物価高騰の影響を調査し市民生活支援を

投機マナーの暴走で物価が急騰している。①学校給食へのお米等の現物支給。②中小業者への融資制度拡充。③福祉施設支援へのガソリン代補助。④市民生活を支える各種減免制度のPRを進めてほしい。

給食への質低下が顕著に。①給食の質低下が顕著に。②給食の質低下が顕著に。③給食の質低下が顕著に。④給食の質低下が顕著に。

太陽光発電へ助成など地球温暖化防止対策の促進を

CO2排出量の8割を占める産業界の取り組みが急務だが、自治体・住民の協働の取り組みも重要。①太陽光発電導入への助成。②学校施設等の壁面緑化。③地域新エネルギービジョンの作成を進めるべき。

和泉多摩川地区センターの利用環境の整備について

和泉多摩川地区センターについて、数人の方から「トイレの使い方が気になる」「周辺にごみが散乱している」

和泉多摩川地区センターについて、数人の方から「トイレの使い方が気になる」「周辺にごみが散乱している」

「夏の暑い時期にクーラーが効かなくなった」などの声が寄せられた。どう対応されているか。

不特定多数が利用。パーベキュー等のごみを流す等、利用者マナーの問題もある。

トイレをごみが入りづらい洋式便器に交換、汚水管も交換。エアコンは、夏場は温度調節が悪く、対策を検討する。

宮坂 良子

必要な介護が受けられる介護保険に。市内に特養ホーム増設を

制度の改善で、給付費が初めて前年度より減少。①基金を使って保険料は上げないで。②特養ホーム待機者は。③介護者60歳以上が6割、老老介護が実態。老後の安心のため、市内に特養ホームの増設を。

介護保険推進市民協議会で、サービスの推計を勘案しながら検討する。②6月現在で195人。③第4期の事業計画では、施設整備を記述し、特養ホームの増設も市の課題である。

便利で楽しいコミュニティバスで元気なまちづくりへ

運行実現に市民から期待の声が上がった。①福祉バス利用者への配慮は、②今後の取り組みは市民参加の運営で、市民のアイデアを生かし、商業振興、福祉向上、交流やまちづくりなどに発展させてほしいが。

①重度障害者訓練施設の利用率の送迎を平成20年度は継続する。②バス運行後に検証し、課題等を解決するため

市民参加の検討の場を設け、バスの定着を図る。

障がい者のガイドヘルプについて

利用者からは大変喜ばれているが、事業所は若いヘルパーさんが定着しないなどで、将来持続させていけるか心配。そこでサービスの維持・充実が行えるよう実態調査をしてほしいかがが。

西村 あつ子

外出時のトイレの確保について

東京都では市が主体となってトイレ整備計画を策定するよう求めている。高齢者施策の一環として、チェーン店や商店等の協力もいただき、気軽に使用できるトイレ確保が必要であると思う。

商店街やコンビニ等の協力ののもと、トイレの共通表示の研究やマップ作成、案内板の設置等の検討をし、関係部署と協議する。

子育て支援の充実について

①妊婦検診無料化の拡充に向け市長の考え。②病児保育は在宅家庭とともに小学校3年生までの対象拡大を。③連携保育所の確保を。④放課後事業の時間延長は。⑤サポート会員の確保を。

①都外・助産院への助成拡大後、年次的に回数を増。②病児保育室と協議、内部で検討。③職員団体、私立保育園等と協議していく。④放課後クラブは検討中。児童保育所は事務折衝中。⑤広報等でさらにPR。

藤田 鋭

中学校給食について

10月より開始される中学校給食について、調理を民間業者に委託することから、食の安全の確保が課題である。市職員の栄養士の役割をはじめ、どのようにしていくのか。

学校給食衛生管理の基準に準拠し、衛生管理の徹底を図るための衛生管理マニュアルを作成し遵守することを明記するとともに定期報告を義務付けた。担当栄養士による検査を実施していく。

花火大会の復活に向けて

花火大会の復活は、多くの市民の願いであり、すべての関係者はこの願いに答えた対応をすべきと考える。行政としては復活への課題をどのように考えているか。

費用の調達が課題。警備等での経費増が見込まれる。協賛金も昨今の不況の中でどれだけ協力いただけるかも懸念材料である。有料席の設置も検討課題である。

田中 智子

「お年寄りの孤独死ゼロ」を目指す取り組みについて

①この10月から実証実験開始の電力中央研究所との「独居高齢者見守りシステム」の概要とモニターの募集状況は。②市の役割。③今後の見通し。④見守りサポーターの実施状況と、要望への対応は。

①家庭の電流変化量を安否確認につなげるシステム。②モニターは、モニター12名。③モニターの見守り活動、説明会等の対応。④研修に22名参加、踏み込んだ見守り活動を予定。

放置自転車対策について「放置自転車ゼロ」を目指して

①駐輪場増設について現在の状況。②設置予定台数は。③駅前放置状況の調査から小田急電鉄、オダキュウOXなどにも駐輪場の設置を働きかけるべきと考えるがどうか。④市民意見の反映について。

田中 智子

2005年以前と比べ、ごみが18%近く削減されている。さらなる削減のために、プラスチックごみをスーパーなどで回収してもらえよう協力を求めているが、いかがか。

スーパーで出るごみは産業廃棄物になるが、店舗独自のリサイクルルートで店頭回収されている。拡大生産者責任の考え方が企業内で進んでいくよう協力を求めている。

三中、四中体育館の耐震化を急ごう

三中、四中の体育館の耐震補強は、2012年度までに行なう計画だが、2010年度までに実施すれば国の補助が得られる。計画を前倒し、2010年度までに完了すべきでは。

教育委員会は補助率の高いつきに前倒しの工事を希望している。今後、公共施設再編方針との整合性を図りながら整備プログラムの作成にあたりワーキンググループを設置し整備の優先順位など含め検討。

田辺 良彦

学校の普通教室にクーラーを

①舗道上等のラックを含め検討中。②600台程度。③要望していきたい。④市民に対する説明の場、撤去活動を応援してくれる市民組織があれば、その働きかけ等、創意工夫ある取り組みが求められる。

昨年気温30℃以上の日が55日に及んだ。良好な学習環境の確保のために、普通教室にもクーラーを設置してほしい。教育委員会としては優先順位の高い課題として位置づけているか。

石川 和広

防災対策 自助と共助を担う 防災士について

自主防災組織とともに自助と共助を担う存在として、今注目されているのが防災士である。防災士養成事業の実施など育成支援や助成補助制度を設ける自治体もふえている。市の見解を伺う。

防災担当職員を中心に防災士の資格を持った職員を増やしていきたい。また、市民への防災士の育成・支援並びに助成・補助制度についても今後研究していきたい。

コミュニティバス運行実施について 福祉に特化したバスの廃止

コミュニティバス運行開始後も福祉バスからの移行困難者の方々に対し課題・問題解決の場は設けられるのか。解決の方策が見出せるまでの対応を望む。市の見解を伺う。

センター利用者は、福祉バスの利用実態を把握、必要性を見て対応を検討。今回の運行内容を最終とするのでなく、運行後に検証し、課題等を解決するため市民参加の検討の場を設け、バスの定着を図る。

市における管理について 公用車の管理及び集中管理について

管理経費の縮減や稼働率の把握、カーシェアリング等効率的な運用や管理の二重

各学校とも個別にはそれぞれ優先順位の高い要望はあると思うが、教育委員会と